

1人1台端末の活用を支えるICT支援員

大阪府
豊中市
の事例

教育委員会が主体となって、ICT支援員を積極的に導入・活用



豊中市の施策

GIGA スクール構想実現をめざして、各学校に配布された1人1台端末を有効に活用するため、ICT支援員を全小中学校に各校一人配置し、教職員の負担軽減を図りながら、教育の質の向上を目指して主体的、対話的な学びへの転換を積極的に推進している。

成功のポイント

充実の運用体制



1人1校担当
58名体制

教育委員会からの依頼への対応が早く、必要な情報が集まりやすく、提供もスムーズ。



チーム制での
効果的運用

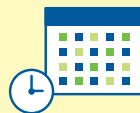
エリアサポーターを設定し、報告・連絡・相談しやすい状況をつくり円滑な運営の礎に。



スムーズな
情報共有

教育委員会と月2回の定例会を実施。また、情報共有のためTeamsを活用。

スキル・状況に合わせた育成計画



年度ごとの
育成計画

研修計画の大枠は年度開始時に策定、その後進捗により研修内容を柔軟に変更。



適正な
教育メニュー

それぞれの状況に合わせて、学校に関する知識やスキルに関する研修を実施。



教育委員会との
連携

教育委員会からの要望により、ICT支援員の育成強化のため、年間27回の研修を実施。

豊中市のICT支援員の主な業務

管理者と現場の支援員が連携し、情報共有することで現場の課題を解決

人材育成

スキルアップのための定例研修会や配置前研修の内容の充実

勤怠管理

学校訪問回数や勤務時間などの勤怠管理

学習・授業支援

ICTを活用する授業での操作やトラブルのサポート、教材作成支援

環境整備

ICT機器の設定やメンテナンス、障害対応など

支援員業務の円滑化

関連情報の提供、電話やメールによるサポート体制の確立

報告書対応

日次報告書の確認、月次まとめて教育委員会へ提出

業務効率化支援

導入されたシステムの活用支援、アンケート集計支援など

端末管理

端末・アカウントの管理、台帳の整備と更新



管理者



ICT支援員